

【生薬名】 樺櫟 *QUEREUS CORTEX*

【起源植物】 クヌギ *Quercus acutissima* 又はその他近縁植物



【科名】 ブナ科 *Fagaceae*

【別名】 土骨皮、櫟皮、赤龍皮、櫟木皮、橡木皮

【薬用部分】 樹皮

【主成分】 タンニン、フラボノイド(ケルチトリン)、デンプン、脂肪

【薬性】 気味は、帰経は未詳

【効能】 ●打撲には煎じた液で洗う

●骨や筋肉の痛みを取る(浅田宗伯)

●解毒、消炎、収斂、止血の効あり(大塚敬節)

●駆瘀血、止血、止瀉、殺菌作用があり

●十味敗毒湯では樺櫟の代用に桜皮を利用

●

【出典】 ●破瘀血、癰瘡結毒、諸悪瘡結毒、撲損宿滞瘀血。(一本堂薬選)

●赤龍皮、苦渋、煎服すると、血便を伴う下痢によいとして、悪性のおできには、煎じた液で洗うと良い。(和漢三才図会)

●

【備考】 ●カシワの樹皮、ナラ、ブナなどの樹皮も樺櫟として用いられる

●

【処方例】 ●十味敗毒湯、治打撲一方